場所　佐賀県嬉野市

面積　47ha

活動目的　本地域の自然と地域における人と自然の関わり方を、茶業を通じて次世代に伝えるとともに、日本文化である茶業の振興と生物多様性の大切さの普及を目的とする。

サイト概要　本サイトは佐賀県嬉野市の中山間地域（標高100M～約500M）に位置する茶園である。嬉野市は長崎県との県境にまたがる多良岳を中心として山麓斜面が形成され、山間部・盆地・平野からなり、それらの自然の恵みを受け、お茶や米麦、施設園芸などが盛んにおこなわれており、里地里山の環境が形成されている。嬉野市では市木に大茶樹を指定しており、不動山皿屋谷にある「大茶樹」は樹齢は約340年と推定され、茶の巨樹として国の天然記念物に指定されている。
本サイトは約500年の歴史を持つうれしの茶の茶園であり嬉野の自然環境と産業を支えてきた土地である。

土地利用の変遷

嬉野茶の最初の栽培地域は虚空蔵山の南麓の山間傾斜地で一般に耕地に恵まれない土地だったが茶栽培に極めて良い自然環境として栽培が開始された。一方自給程度に栽培していた平野部に近い地域では養蚕業の衰退とともに茶栽培が発達していった。昭和40年ごろを転機として茶栽培は大きく転換し、古くから主流をなした畦畔茶園は急速に減退し、パイロット事業として造成された茶園が拡大した。本サイトはこのような経緯の中で現在茶園として管理されており、今後も茶園として継続維持するために、活動を展開している。

サイト周辺の環境

有明海に注ぐ塩田川の上流域にある本サイトの茶園は、日当たりの良い傾斜のある谷間に広がる。周辺は、スギ・ヒノキの植林と照葉樹林がパッチ的に存在する里山である。この地域では茶栽培が行われてきたが、後継者不足等により耕作放棄地が進んでいる。

アピールポイント

本サイトは、里地里山の豊かな自然を体験できる場であり、生物多様性の大切さを茶摘み体験等を通じて実施している。また本サイトの活動は若手茶農家で実施していくことから、長期にわたる自然環境保全が可能である。今後は共生サイトに認定されることで、うれしの茶をブランドとして消費者に認知してもらい、生物多様性に対する社会的な関心を高めていくことに貢献したい。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトは、山麓斜面に形成された山間部・盆地・平野の地形を活かした茶園で成り立っている。茶園では冬咲く花がミツバチ等の蜜源となり、他にも四季折々に様々な虫が確認でき、ウンカ類やアブラムシ類・ダニ類等の食害虫がいる一方で、クモ類・ハチ類・テントウムシ類・カマキリ類等の、茶の食害虫を捕食する生態系がある。また、茶畑は、キツネ等が立ち寄る場ともなっている。

【主な植生】

・茶畑

【確認された主な動植物など】

昆虫24種、両生類2種、哺乳類11種、鳥類7種、植物65種が確認された。主な動植物は下記のとおり。

昆虫：ウンカ類、アブラムシ類、カマキリ類、テントウムシ類、ニホンミツバチ、マルハナバチ、クマバチ、スズメバチ、ショウリョウバッタ、マツムシ、エンマコオロギ
両生類：ニホンアマガエル、ツチガエル
哺乳類：キツネ、イノシシ
鳥類：キジ、ヒバリ、ウグイス、スズメ、カラス
植物：チャノキ、アカメガシワ、クワ、ツユクサ、マルバツユクサ、カタバミ、アカカタバミ、コオニタビラコ、スベリヒユ、オオバコ、スギナ、ワラビ、ニワホコリ、メヒシバ、オヒシバ、スズメノヒエ、ススキ、ニシキソウ、ニラ

写真の説明：冬に花咲くチャノキ

写真の説明：茶園で確認されたキツネ

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

うれしの茶は、室町時代から生産が始まったとされており、現在の茶の製法は、蒸しが主流ではあるが嬉野では当時からの伝統的な釜炒り製法も残されている。サイト内の一部の茶畑では、手摘みで丁寧に茶葉を摘んで、お茶作りをしており、全国茶品評会では蒸し製玉緑茶部門と釜炒り茶部門の2部門で農林水産大臣賞を獲得するなど、高品質なお茶を生産しつつ、茶畑では、キジなどが良く見られる生態系となっている。

【主な植生】

・茶畑

【確認された主な動植物など】

昆虫24種、両生類2種、哺乳類11種、鳥類7種、植物65種が確認された。主な動植物は下記のとおり。

昆虫：ウンカ類、アブラムシ類、カマキリ類、テントウムシ類、ニホンミツバチ、マルハナバチ、クマバチ、スズメバチ、ショウリョウバッタ、マツムシ、エンマコオロギ
両生類：ニホンアマガエル、ツチガエル
哺乳類：キツネ、イノシシ
鳥類：キジ、ヒバリ、ウグイス、スズメ、カラス
植物：チャノキ、アカメガシワ、クワ、ツユクサ、マルバツユクサ、カタバミ、アカカタバミ、コオニタビラコ、スベリヒユ、オオバコ、スギナ、ワラビ、ニワホコリ、メヒシバ、オヒシバ、スズメノヒエ、ススキ、ニシキソウ、ニラ

写真の説明：手摘みの様子

写真の説明：手摘みの様子

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

谷間の傾斜のある茶畑の周囲は、照葉樹林やスギ・ヒノキ林が分布しており、キジ等の生息地になっている。また、チャノキの環境を利用して生息生育する哺乳類が見られる。

【確認された希少種】

佐賀県レッドリスト2003の掲載種として、哺乳類１種が確認されている。

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
「活動目的」 本地域の自然と地域における人と自然の関わり方を、茶業を通じて次世代に伝えるとともに茶業の振興と生物多様性の大切さの普及を目的とする。 「活動内容」 茶園に関して以下の保全活動を行う。 １．茶園として毎年農業を継続する。 ２．年間を通じた管理を行う。 ３．ハチ類等に配慮した農薬を使用する。 「実施体制、計画の点検・見直し」 グリーンレタープロジェクトメンバーがこれら保全・利用活動その他維持管理作業を行う。イノシシの食害対策等は専門家の助言を得る。 本活動計画は2年に1回点検するとともに、5年に1回程度改定する。	**【モニタリング対象】** 鳥類・両生類・昆虫類・植物を対象とする。 **【モニタリング場所】** サイト内で標高差や尾根が異なる5つの地域で調査 **【モニタリング手法】** ・調査地点での目視と採収 **【モニタリングの実施時期及び頻度】** ・基本的には2年に1度の頻度で実施 ・モニタリング実施年の3月、6月、9月、12月に実施 **【モニタリング実施体制】** グリーンレタープロジェクトメンバーが中心となって実施。 市職員や農協職員によるモニタリングも実施。 分析・計画立案の助言は有識者（茶業試験場職員）に依頼。